

第二回

平成二十一年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が二問で、問題文は一ページから六ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしが小学生のころの教科書にあった話だと思うが、(注)しもりのりなが本居宣長は、自分の家の書棚しよだなから、あかりをつけずに必要な本を取り出すことができたという。また、どこそこの棚の右から何番目、と言われていつてみると、ちゃんとその本があった、というような話も聞いた。

昔の人は、記憶力きおくりきのいい人と思うくせがあつて、そのような人を博覧強記①と呼ぶのは最大のほめことばだったようだ。それで、この話も、本居宣長のゼツダイaな記憶力をリツシヨウbする話として、聞かされたように思う。しかし、これはじつは記憶力の話ではないので、宣長の「整理のよさ」をものがたっているだけのことであろう。整理の方法さえよければ、②これくらいcのことは、だれだつてできる。

わたしは子どものころから、ものもちのいいほうで、いろいろなものをホゾンcするくせがあつた。ごくありふれた道具類のこわれたものとか、けしゴムのかけらだとか、そういうガラクタ類まで、たいせつな宝物みたいに、どこかにしまいこんでいたのである。大きくなつてからは、ものばかりか、友人たちからもらつた手紙類や、学校関係のパンフレット、紙きれまで、d後生大事dにのこすようになってしまった。(A)、いっさい整理eということをしらないから、なんでもかんでも、箱の中に乱雑らんざつにつめこんでいただけである。わたしは今まで、少なくとも高等学校時代からの、③このような「遺産」の山を、(注)らんざつなすすべもなくかかえこんでいる。

高校時代はためこむだけでよかつた。いよいよ自分の仕事ははじめてみると、これではどうしようもなかつた。前に来た手紙が、必要なときに出てこなかつたり、会のインサツ物が、見ようと思うときにゆくえ不明だつたりしてたいへんこまつた。どういう整理法をとればいいのか、そんなことを教えてくれる人もなかつた。わたしは、自分自身の文章を整理するために、いろいろなことをやってみた。なんべんもシツパイfしたが、そのたびに、少しずつかしくなつた。(B)、eどうやら整理についての基本的原則みたいなものがわかつたような気がしている。

一般に、整理というのはどういうことなのか。どういう状態になれば、よく整理されているといえるのか。整理というの、ちらばっているものを目ざわりにならないように、きれいにかたづけられることではない。それはむしろ整頓せいとん④というべきであろう。ものごとがよく整理されているというのは、見た目にはともかく、必要なものが必要なときにすぐとりだせるようになっていて、④ということだとおもう。

世のなかには、一見乱雑にみえて、そのじつ、まったく整理のいい人がいる。逆に、本や書類を整然とならべていくせに、必要なときには何もでてこないという人もいる。整理がよくて整頓せいとんのわるい人と、整頓せいとんがよくて整理のわるい人とがある、というわけである。整理は(1)の問題であり、整頓は(2)の問題である。やってみると、整頓よりも整理のほうが、だいたい難しい。(C)、c書齋しよさいの中をきれいに整頓することはだれでもできるが、整理することは本人でないとできない。

こういう意味での整理を実現するためには、いくつかの原則があるように思う。第一に重要なものは、それぞれのものの「あり場所」が決定されている、ということだとおもう。あり場所が、そのときどきに変わるのでは、どうしようもない。

I 次に、その「置き場所」の決め方は、体系的たいていでなければならない。

II 「置き場所」の体系として、どういふものを採用するかは、ものによつてちがう。

III 別な言い方をすれば、整理の第一原則は、ものの「置き場所」を決める、ということである。

IV せっかく「置き場所」を決めても、その決め方に法則がなければ、とうてい記憶しておくことができないから、けつきよく、必要な時に必要なものが出てこない。

整理の方法の研究とは、じつはこの体系の研究なのだ。カードの分類・配列をどうするか、本棚に本をどのように並べるかなど、みなそれである。

「置き場所」の次は、「置き方」の問題だ。置くときには、つんではいけない。何でもそうだが、とくに本や書類はそうである。横にかさねてはいけない。必ず、立てる。本当にかんたんなことだが、この原則を実行するだけでもおそろしく整理がよくなる。「置き場所」が決まったら、その「置き場所」を守らなければならない。(D)、取り出したら、後は必ず、元の位置に「もどす」。これが次の原則である。わかりきったことだが、これを厳格に実行できるかどうか、整理がうまくゆくかどうかの決め手である。

わたし自身の書類の整理法の歴史をふりかえってみると、まったくばかげたことをくりかえしてきたものだとおも^⑤う。もちろん右の諸原則から外れている。はじめのころは、たまった書類を、ひもでくくるか、いくらか分類して糸でとじるか、していた。しかし、これでは全然整理したことにならない。このやり方は、文書を残しているというだけで、実際問題としては、必要なときに過去のデータをよびだすことはできないのである。過去はおしいれのくらのみの中かで、永遠にねむりこんでしまう。必要に応じて、過去を現在によびおこすということこそ、整理ということなのである。

(注1) 本居宣長||江戸時代中期の国学者。

(梅棹忠夫「知的生産の技術」から)

(注2) なすすべもなく||どうする方法もなく。

問い1 ||部ashの漢字の読み方をひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

問い2 ^① 博覧強記の意味として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 広く書物を読んで、よく内容を覚えていること
- イ 豊富な経験があり、それをすべていかしていること
- ウ 学問に功績があり、歴史にその名がのこされていること
- エ 見聞きしたことを、うまく文章にまとめる力があること

問い3 ^② これくらいのごときは、だれだってできる。とありますが、「これくらいのこと」とはどのようなことを指しているか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の書棚をきちんと整頓すること
- イ 頭のいい人という最大のほめことばをもらうこと
- ウ 書棚のどこにどの本が置いてあるか、よく覚えていること
- エ 他人に指定された場所に行つて、必要な本をみつけること

問い4 () ASDに入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア [A たとえば] B つまり C ただし D そして
- イ [A ただし] B そして C たとえば D つまり
- ウ [A つまり] B ただし C そして D たとえば
- エ [A そして] B たとえば C つまり D ただし

問い5 ③ 「遺産」の山とは、どのようなものを指していますか。それを説明した次の文の

イ

にあてはまる言葉を、それぞれ本文中から七字で書きぬきなさい。

ア

のようになっています。

イ

のこと。

問い6 ④ ものごとがよく整理されているとありますが、「反対に」ものごとがよく整理されていないとどのような状態になってしまいますか。筆者の具体的な体験が書かれている一文を本文中から探し、最初の五字を書きぬきなさい。 (、や。も字数に数える。)

問い7 (1) (2) にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---------|--------|---|---------|--------|
| ア | 「(1) 用法 | (2) 順序 | イ | 「(1) 能力 | (2) 技術 |
| ウ | 「(1) 精神 | (2) 身体 | エ | 「(1) 機能 | (2) 形式 |

問い8 I、S、Vの文を意味がとおるように並べかえるとどのような順序になりますか。それぞれ解答らんに記号で書き入れなさい。

問い9 ⑤ まったくばかげたことをくりかえしてきたものだとおもう。とありますが、そのように筆者が述べる理由を解答らんの「くから」に続くように、本文中から二十四字で書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い10 ⑥ 右の諸原則とありますが、本文中では全部でいくつの原則があげられていますか。漢数字一字で答えなさい。

問い11 人間でないものを、人間の様子にたとえて表現した一文を本文中から探し、最初の五字を書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼく(恭・中二)、智明(中二)、じゃがまる(小四)、ナス(じゃがまるの兄・中一)、章(中三)はいとこの士である。五人は、章の別荘で、子供だけ(管理人の小野田さんが食事の世話で泊まりこんではいるが)です。す夏の二週間を毎年楽しみにしていた。すべてを規則正しく仕切る章をうとましく思いはじめながらも、ぼくらは章から嫌われないように気をつかっていた。

① 「王様は裸だ」とさげんだのは、小さな子供だった。賢い人だけに見えると言われて、ありもしない服を身にまとい、大手をふって街を歩いてきた裸の王様。王様はそのとき、どんな気がしただろう? 憎いのは小さな子供じゃない。それまで王様をだまして偽物のおせじをふりまいていた連中だったと思う。

章くんは王様ほどばかじゃなかったけど、ぼくらのうそをあばいたのは、やっぱり小さなじゃがまるだった。別れの前日。この夏の終了まで、あとわずか二十時間。

(A) そこまでこぎつけたときになって、じゃがまるはすべてをひっくりかえしてしまっただ。

その日の天気は最高で、焼きたての甘い菓子パンみたいな、(B) 真夏のピークっておいのする風が吹いていた。きのうまでの雨が冗談みたいなのに、太陽の光が青空一面にさえわたり、乾いた砂浜には水たまりのような蜃気楼がいくつも浮かんでいた。

自由研究の「雲の観察」に出むいていったじゃがまるも、うだるような外の暑さには降参したらしい。

「雲なんてひとつもないっ」

ふうふう **I** を切らしながらもどってきて、リビングの隅のテーブルで「貝殻の研究」を始めた。貝殻を一列に並べたり、また並べかえたり、(C) 重ねてみたり。どう見ても遊んでるだけだったけど、研究という建て前で冷房のきいたリビングにいたかつたんだらう。

ぼくらはソファで勉強中だった。その日の課目は英語だった。

「ナス。ここんとこ、ちよつと読んでみる」

章くんがナスに教科書をまわした。それは中三の教科書で、ぼくらにはまだ早すぎたけど、だからこそ自分が教えてやるんだと章くんは張りきっていたんだ。

「二九ページの頭からだ」

a 「ええと、イン、ザ、ノース、オブ、ザ、シティー、オブ、ヒロシマ……」

つかえつかえ、ナスが慎重なカタカナ読みをする。単語はさほどむずかしくないから、ナスならすらすら読めるだろう。なのに、(D) そんな読み方をするナスがおかしくて、ぼくはこみあげてくる笑いを押し殺した。そのときだ。

「兄ちゃん、何してんだよ」

テーブルからじゃがまるが不満そうな声をひびかせた。

b 「へんな発音しないでよ。兄ちゃん、もつとうまいじゃんか。へんな読み方するとくせになるってミスター・エリオットが言ってたよ」

II とはまさにこのことだろう。ナスは見るからに動揺して耳まで赤らめ、ぼくと智明もこまつてうつむいた。やばい。こいつはやばいぞ。

「どういうことだ?」

章くんがナスにつめよると、

「兄ちゃんミスター・エリオットに英語習ってたんだよ、六年間も」

ナスの代わりに、じゃがまるが答えた。

c 「ぼくも今、通ってた。まだ兄ちゃんには負けるけどね」

このとき章くんがどんな顔をしていたのか、ぼくは知らない。のぞきこむ勇氣なんてとてもなかったから。

ぼくらは気まぐれだまりこんだ。章くんの沈黙が不気味だった。異様な **III** がリビングに立ちこめる。そのぴりぴりした空気の意味がわからず、じゃがまるは混乱して立ちあがった。

「どうしたの? みんな」

だれも答えを返さない。

「ねえ、どうしたの? どうしちゃったの?」

じゃがまるの声が泣き声に近づいていく。

⑦ どうしたの、どうしたの、と、じゃがまるは必死でくりかえした。たまりかねたナスが、
d 「なんでもないよ」とつぶやくと、

「ちがうよっ」

バシッと、ぼくの肩かたに何かが当たった。

「なんでもなくないよ。ぜんぜん、なんでもなくないじゃんかっ」

ふりむくと、真っ赤な顔のじゃがまるが両手に貝殻を握りしめて握にぎっている。口もとをぶるぶるとぶるわせて、完全にそをかきながらも、じゃがまるはほくらにバシバシと貝殻を投げつけた。

「みんなへんだよ。おかしいよ。この夏はなんだか、どうかしてるよ。兄ちゃんも恭くんも智明くんも、みんなへんななつちやったよ。ぜんぜんちがくなつちやったよ。ちがくないのは、章くんだけだよ。こんなのいやだ、いやだ、いやだっ」

瞬またたく間にすべての貝殻をぶちまけると、

⑧ 「もともどしてよっ」

一言絶叫げんごうして、じゃがまるはリビングを飛びだしていった。

(森もり 絵都えと「子供は眠る」から)

(注) 動揺どうご＝気持ちなどが不安定になること。

問い1 ① 王様は裸だとありますが、この別荘での出来事で「王様は裸だ」にあたる言葉として最も適当なものを、本文中の……線 a s d の中から選んで、記号で答えなさい。

a ええと、イン、ザ、ノース、オブ、ザ、シテイー、オブ、ヒロシマ……

b へんな発音しないでよ。兄ちゃん、もっとうまいじゃんか。

c ぼくも今、通ってた。まだ兄ちゃんには負けるけどね

d なんでもないよ

問い2 ② そのときとありますが、別荘での出来事に当てはめると「じゃがまる」がどうした「とき」ですか。解答らんの「〜とき」に続くように、本文中から十一字で書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い3 ③ 偽物のおせじとありますが、「ナス」の場合は何を表していますか。本文中から九字で書きぬきなさい。(、や。は字数に数えない。)

問い4 () A S D に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア [A わざわざ B いかにも C ちよっと D ようやく]

イ [A わざわざ B ちよっと C ようやく D いかにも]

ウ [A ようやく B ちよっと C わざわざ D いかにも]

エ [A ようやく B いかにも C ちよっと D わざわざ]

問い5 ④ らしいと同じ働きをしているものはどれですか。次の中から二つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア 実に男らしい、立派な行動だった。

イ 君の研究はすばらしい。

ウ 波が高くて危険らしい。

エ この小鳥はなんとも愛らしい。

オ 明日はすっかり晴れ上がるらしい。

問い6 I にあてはまる言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 息 イ 風 ウ 汗あせ エ 砂すな

問い7 ⑤ 建て前⑥ つめよるの本文中での意味は、それぞれどれですか。下から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

⑤ 建て前

ア とつさの言いわけ

イ 適当な時機

ウ 表向きの考え

エ 一時的なうそ

⑥ つめよる

ア 意地を張る

イ 聞いただす

ウ 言いきかせる

エ おどしをかける

問い8 II にあてはまる言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 胸がすく

イ 頭が下がる

ウ 虫が知らせる

エ 時が凍りつく

問い9 III にあてはまる言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 緊張感きんしょうかん

イ 不安感

ウ 絶望感ぜつぼうかん

エ 責任感せきにんかん

問い10 ⑦ どうしたの、どうしたの、と、じゃがまるは必死でくりかえした。とありますが、このときの「じゃがまる」の様子を表した次の文の [] にあてはまる言葉を、本文中から二字で書きぬきなさい。

じゃがまるが [] している様子

問い11 ⑧ もとにもどしてよつとありますが、このときの「じゃがまる」の気持ちとして適当でないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 去年までと違ってしまったみんなの様子を強く感じてはいるものの、どうにもできないことへの大きな苛立ちいらだ

イ うわべを飾るみんなの態度のために、楽しいはずの今年の二週間が台無しにされたことへのやりきれない怒りいか

ウ いつもの夏のような和やかで楽しい状態に戻すために、自分がみんなにうったえるしかない、という強い思い。

エ 三人だけで何か秘密を共有している様子に、自分一人だけが仲間はずれにされ取り残されたというさびしさ。

オ ばらばらになってしまったみんなの心を一つにして、この散らばった貝殻を拾い集めてほしいという願い。